

17th Congress of Association France Japon d'Orthopédie (第17回日仏整形外科合同会議)に参加して

整形外科学教室 大学院2年 岩田 長瑠 (2020年入局)

2024年6月13日から15日まで、フランスのReimsにて開催された、第17回日仏整形外科合同会議に、大槻教授と参加致しました。今回、初めて海外学会へ参加させて頂きました。初めての訪仏であり、飛行機の予約や旅程を立てるなど社会人として良い経験となりました。今回の開催地であるReimsはフランス北西部シャンパーニュ地方の歴史ある司教都市であり、学会会場はMaison de Champagne Vranken Pommeryという歴史あるシャンパン製造所があると大槻教授から事前に伝えられており、参加を大変楽しみにしておりました。

本学術集会では口頭発表を行いました。また、セッション数が多かったため発表者兼の2人座長(日本人1人とフランス人1人)ということで人生初の座長も経験させて頂きました。経験年数からどう考えても分不相応な座長でしたが、幸いにもう1人の座長であるSebastien Lustig教授は岡本純典先生が以前留学されたLyon大学の兄貴肌な性格の教授で、大槻教授も顔見知りということで事前打ち合わせもあり、半月板研究の第一人者であるRené Verdonk教授も発表者の中にいましたが、手取り足取り誘導していただき無事にセッションを終えることができました。学会会場の地下はシャンパンの貯蔵庫となっていました。大規模なシャンパン製造で富を蓄えたPommery夫人の所縁の施設の見学ツアーや地下のwineryでのdiner receptionもあり、経験したことのない豪華な学会でした。大学の関節班でのカンファレンスで話題になるCaton Deschamps Indexの発案者であるJacques Caton教授や股関節外科の大御所であるPhillippe Hernigou教授の講演は、教科書ではない生の講義ということで非常に勉強になりました。また、日本人の発表は

膝・股関節分野ではRobotic surgeryの発表が目立ちました。

学会参加以外のことを少しお伝えします。今回は3泊5日で学会に参加したのですが、学会の朝早くに起きて焼き立てクロワッサン巡りをしました。現地の食べ方に習いカプチーノも注文し、クロワッサンを浸して食すると非常に美味でしたが、毎回1個で注文していたのにも関わらず2個・3個提供されたため、毎朝満腹の状態です。学会会場に行くことになりました。(当然ホテルの朝食も食べております。)会場に着くとさらに朝食でクロワッサンとコーヒーが提供され、さらに間食・昼食もシャンパンを味わいながら、ダイエットしている方は美食の街が故、十分に注意された方が良かったと感じました。

またお国柄ですが、会場の外で接するフランス人が特別に日本人に対して優しいということはありませんでした。しかし、この学会に参加しているフランス整形外科医は皆、我々日本人整形外科医に優しいということを感じました。セッションで英語に戸惑う日本人に対しても非難したりするフランス人はおらず、会場は常に優しい雰囲気にも包まれていました。またdiner reception後に帰りのタクシーが捕まらずロビーで座っていたところ、学会長のPascal Vie教授が自家用車で名も知らぬ日本人の私を送迎してくださいました。こういった国籍の異なる面識がない人間に対しても優しく交友を深めることができる雰囲気というのも、一重にこれまでに先人の先生方が築き上げてきた日仏の関係性があったことだと思われまふ。私のような若い先生方で初めての海外学会にも参加してみたいという方がいれば、今回のような日仏整形外科合同会議は、優しい雰囲気での整形外科を通じて世界とつながりながら美食と

国際学会に参加して

芸術の街を経験できるので、非常にお勧めかと思えます。

外勤先の新河端病院の市場先生や松山先生、谷内先生のサポートで参加が叶いました。大学院生という短い期間の中で人生において貴重な経験をさせて

頂きましたこと、関わっていただいた先生方にこの場を借りてお礼申し上げます。今後の研究や臨床意欲の向上につなげて精進させていただきますので、今後ともご指導ご鞭撻の程何卒よろしくお願い致します。



国際学会に参加して

